

看護の技術 地域のために

「潜在看護師は大事な社会資源。その掘り起こしをして、安心して暮らせる地域社会を築きたい」

看護師資格を持ちながら

仕事に就いていない「潜在

看護師」は50万人以上いる

ともいわれる。そうした人

たちに、在宅介護で困って

いる家庭への手助けをして

もらい、「地域の介護・看護

力を高めたい」と、19

97年に会を設立した。

手助けの中心は様々な。

外出する家族に代わって病

人や障害児の世話をした

り、お年寄りの買い物に付

き添ったり、がん患者の家

族の相談相手になったり…

「潜在看護師」の力で、在宅介護を支援

菅原 由美さん 50 (訪問ボランティア代表の会「キャンナス」)

は全国15か所に広がった。

「キャン」は英語で「でき

る」意のCAN、「ナス」

は看護師を意味するNUR

SE(ナース)からとった。

「出産・育児などのため

に現役を離れてからのプ

ランクが長かったり、家庭

の都合で1日数時間しか働

けなったりする私たちで

も、お役に立てることは

たくさんある。活動の柱は、

終末期ケアのお手伝いと、

家族が息抜きする時間の提

供。そばにいてくれるだけ

で安心」と言われると私

たちもやりがいを感じます」

看護師として大病院に

勤めた後、結婚、親の介護

が重なり退職。3人の子供

を育てる傍ら、保健所でパ

ートとして働き、夫の会社

の事務の仕事もしてきた。

20年近く前、10歳になる

夫の祖母が入院した。昼は

仕事、夜は1日おきに病院

に泊まる生活。唯一の息抜

きが、大好きな宝塚を見に行くと決めた。だから、病人を抱える家族の息抜きの必要性は、よくわかって

いるつもりです」

治療の施しようがないのに検査だけはしようとする

病院の姿勢に疑問を感じ、思い切って祖母を家に連れ

帰ると、祖母が幸せそうな

顔をしていたのが印象に残

った。がんを患った夫の母親

も自宅に連れ帰ると、驚く

ほど元気になった。

「私に若干の看護の知識

があったから、祖母や義母

を連れ帰ることができた。

私のような看護師が力をあ

わせれば、施設や病院暮らしを余儀なくされている人

をもっと救えるのでは」

発足前、「医師の指示がなければ何もできない看護師が、勝手なことをするな」と言われたことも。

「医師と連携し、家族の手助けをするのが私たちの仕事。それに、在宅ケアの体制が整わない中で、せっかくの知識や技術を眠らせて



「体調はいかがですか」。利用者の顔色に注意を払いながら、明るく話しかける菅原さん(右、神奈川県藤沢市内の利用者宅で)＝本間光太郎撮影

ておくのはもったいない」

介護保険制度導入で、在宅介護の環境はだいぶ変わった。とはいえ保険の対象

にならないニーズも多い。そうしたニーズに応える

とともに、最近はずけて支援にも力を入れる。

当初、28人でスタートした元看護師が、1年間のうちに15人がやめてしま

い、あせったこともある。

「自信なさそうにボラン

ティアを始めた看護師たちが、自分が役に立てるとわ

かって自信をつけ、再就職したんです」

仲間が減るのは困るが、潜在看護師の社会復帰は、

社会全体で見れば望ましいこと。一人材育成も大事な

ボランティア活動と思うようになりました」と笑う。

人材不足に悩む看護の世界では、海外から看護師を受け入れる案も出ている。

「その前に、潜在看護師の活用をぜひ、目を向けてもらいたい」

(猪熊健子)

潜在看護師 資格を持ちながら看護業務に就いていない看護師のこと。厚生労働省によると、准看護師、助産師、保健師を含め約55万人。看護師は将来的にも不足が見込まれることから、同省の検討会が潜在看護師の活用を提言。来年度に再就職支援モデル事業が実施される。